

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3972400307		
法人名	医療法人 岡本会		
事業所名	グループホーム 加田		
所在地	高知県吾川郡いの町加田310		
自己評価作成日	平成29年4月27日	評価結果 市町村受理日	平成29年8月15日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

国道から50mほど入っただけだが、静かで広々とした年中日当たりのよい立地です。敷地内では毎年、椿・コブシ・菜の花・桜・チューリップ・芝桜・コスモス・金木犀等季節折々の花木が目を楽しませてくれるので、真夏・真冬以外は毎日散歩をしながら季節を感じる事ができています。地域の方とは、運動会・敬老会等の行事へ参加して頂いたり、ホームの敷地を開放したりと、日頃からコミュニケーションを図れるよう努め、ホームへの理解や支援をいただいています。また、防災訓練や地域の清掃活動を通じて協力し合える体制作りに努めています。

日頃より協力医療機関と連携を図りながら、健康管理を行い、利用者様やご家族様のご意見やご要望をお聞きしながら、一人ひとりの身体能力・性格等を考慮して個別ケアに取り組んでいます。

職員は、内外の研修会に参加して知識の向上に努めると共に、職員同士のチームワークを大切に、笑顔で明るく仕事ができる職場作りに取り組んでいます。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kajigokensaaku.mhlw.go.jp/39/index.php?action_kouhyou_detai_1_2017_022_kihontrue&Ji_gyosyoCd=3972400307-00&PrefCd=39&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	高知県社会福祉協議会
所在地	〒780-8567 高知県高知市朝倉戊375-1 高知県立ふくし交流プラザ
訪問調査日	平成29年6月14日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、庭続きで民家に隣接し、住民の往来も見える、行き来しやすい環境にある。庭は広く、運動場の周囲には草木が植えられて、各居室からの眺めから季節感が得られるよう整備されている。

母体法人とのパイプ役である施設長は、法人内の事業所間の調整、法人全体の運動会の企画、外出行事介助要員の調達などに積極的に関わり、活動がスムーズに運営できるよう尽力しているほか、利用者や職員の意向が法人本部に届くような体制で運営している。

地域の防災訓練への参加や訓練場所の提供、事業所の防災訓練への住民の参加など、地域住民の一員として、地域と一体化した事業所運営を行っている。

職員の勤務の調整や有給休暇が取りやすい勤務体制を取り、働きやすい環境が作られており、継続して働く職員が多い。職員と利用者、家族との関係性もよく、事業所全体が家族のような形が築かれて、安心して生活できる環境となっている。

自己評価および外部評価結果

ユニット名: 夢

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	開設当初から基本理念を職員全員で共有し、実践に努めています。理念は玄関ホールに掲示しています。	平成13年の開設当初から、朝礼で理念の唱和と内容確認を繰り返している。月2回の職員ミーティングでも、実施しているケアが理念に沿っているかの確認をしている。職員も迷ったときは理念に立ち返り考える習慣ができており、理念に基づくケアに繋がっている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	敷地の開放、事業所行事への参加、婦人会コーラスの慰問などで交流を深めています。一斉清掃や地区の自主防災訓練にも参加するほか、近所の方が野菜や花を持ってきて下さったり、畑の収穫の声かけをして下さったり、日常的に交流できています。	地域の防災訓練場所、住民のゲートボール場等に庭を開放しているほか、事業所は民家に囲まれ、地域住民からのおすそ分けの提供や声掛けがあるなど、この地域に溶け込み、地域の一員として利用者が生活できるような交流がなされている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	散歩の時は地域の方と挨拶を交わして積極的に交流を図る事で自然と会話が生まれ、理解を深めています。また、地域の方から相談があれば助言を行い、支援に努めています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、事業所の現状、利用者の様子や活動等を伝え、様々な角度からの意見を参考にして、施設の向上に繋げています。	運営推進会議には地区、役場、家族、利用者代表が参加し、入居者の生活状況や活動を報告するとともに、感染症などの発生時期などには、役場からの指導を受けている。また、参加者が日々の気付きや行事の感想などを話し合い、運営に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域包括支援センター職員と事業所職員とで、年に数回、情報交換や勉強会を行なっています。また、町が開催する研修会に参加したり、必要な時には相談して、助言を頂いています。ホームからは毎月通信を発送し状況をお伝えしています。	町のグループホーム連絡協議会の勉強会での事例検討会に参加して、助言をもらったり、外部評価の結果を報告するなど、協力体制を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施設外研修への参加や、身体拘束ゼロの手引きを用いたミーティングや朝の会で勉強会により、身体拘束について職員に周知し、身体拘束廃止に取り組んでいます。	虐待や身体拘束廃止の研修会に参加して報告を行っているほか、介護時に無意識に出る不適切な言葉にも、気付いたときに管理者や職員同士が注意し合っている。利用者のリスクが高まった時には、その都度家族に説明を行い、対応を一緒に考えるなどしている。また、玄関や入り口などは解放されており、閉塞感のないケアを実施している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設内外の研修会や勉強会を通じて高齢者虐待について啓発し、徹底して防止に努めています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	施設内外の研修会に参加し、知識の習得に努めています。必要時には、支援や助言を行っています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者、家族には、入居前に重要事項及び契約等の説明して、理解と納得が得られるよう努めています。疑問点にはその都度説明を行い、理解していただけるよう努力しています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時等に十分なコミュニケーションを図り、信頼関係の構築に努めています。要望や意見は必ず職員間で伝達し、検討しています。	会話中の利用者の言葉や表情などから思いを把握するとともに、家族の面会時に依頼を受けたことはノートに記載し、全員が把握して対応できるようにしている。また、行事等で家族が集まる機会には、家族だけで話し合える場を設けて意見を聞き取っている。	家族だけで話し合える環境は設定されているが、世話になっていることへの感謝の言葉が多く、苦情や要望は少ない。率直な意見を聞くため、議題やテーマを提示して意見や要望が聞けるようするなど、今後の工夫を期待したい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月ミーティングを開催して意見を出し合い、検討しています。情報は職員全員が共有できるように努めています。	施設長が法人と事業所を結ぶ役割を果たしており、必要物品の購入などの希望を含め、職員の意見が反映できる体制になっている。また、勤務時間や夜勤、休暇などの希望や、勤務交代等、職員個々の生活状況に対応しているため、長年勤務している職員が多い。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の長所や能力を活かし、自信を持って働けるよう努めています。また、家庭の状況等を考慮したシフト作りを行っています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修には可能な限り参加できるよう配慮し、職員の質の向上に努めると共に、各免許の取得の支援も積極的に行っています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修会や勉強会を通じて情報交換行ない、職員一人ひとりの知識の向上や施設の向上に反映させています。また、行事等にお互いに行き来をし、交流を図っています。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	身体状況や性格・生活歴等多くの情報収集に努めると共に、傾聴を心がけ要望等を聞きながら、信頼関係作りに努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前や入居当日にゆっくりと話す機会を設け、要望や不安を聞き、出来るだけ早く信頼関係が構築できるように努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	身体状況、性格、生活歴、病歴など、できるだけ多くの情報を収集し、利用者や家族の要望を伺いながら、適切なサービスで支援できるよう、努めています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常の様々な場面で昔から受け継がれてきた生活の知恵的なアドバイスを頂いたり、家事等を一緒に行う事で、支え合える関係作りに努めています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		<p>○本人を共に支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>毎月通信を発送して暮らしぶりを伝えたり、面会の時などにゆっくりと話しをする機会を設け、思いや要望を聞きながら、共に支え合っていく関係づくりに努めています。</p>		
20	(8)	<p>○馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>今までの生活歴や交友関係が継続できるよう要望を聞きながら支援に努めています。また、面会はいつでも可能であり、面会時は自室でゆっくりと一緒に寛げるよう配慮しています。</p>	<p>家族と一緒にドライブや食事、近くの「憩いの家」の集いや行事に出かける交流をしたり、選挙時に地域の投票所へ行く支援や、孫や曾孫などの結婚式に参列できるよう支援をするなど、入居者が大切にしてきた関係が継続できるよう支援をしている。</p>	
21		<p>○利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている</p>	<p>仲の良い方が自由に行き来したり、自室で一緒に過ごしたりできるよう支援しています。また、食卓の席の配置にも配慮し、より良い関係作りができるよう支援しています。</p>		
22		<p>○関係を断ち切らない取組み</p> <p>サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている</p>	<p>退所時には本人、家族、主治医を交えて相談、検討をし、要望等を聞いて、納得の行く退所としています。退所後も相談を受けたりし、継続して関わりを持っています。</p>		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	<p>○思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>意向や要望を十分に聞き、人格やプライドに配慮すると共に、今までの生活なども考慮して、一人ひとりに合った支援に努めています。</p>	<p>家族の来訪時には必ず近況を説明して、要望などを聞き取りケアに反映させている。長年規則正しい生活で勤め上げた利用者には、毎朝日めくりカレンダーをめくり、朝刊を指定箇所へ整理することを依頼し、役割や生きがいづくりにするなど、入居者個々の根底にある思いを引き出し支援する工夫をしている。</p>	
24		<p>○これまでの暮らしの把握</p> <p>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>	<p>一人ひとりの生活歴や生活状況を多面的に情報収集し、情報を職員は共有してサービスの提供に努めています。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々の生活リズムや身体能力・体調を日々観察し把握すると共に、ミーティングにてアセスメントを行い職員全員で情報を共有しています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者や家族には日常的に要望等を聞き、医師等の助言もいただきながら、ミーティングでの検討を行って介護計画に反映しています。	毎日、個々の利用者のケアについて情報共有するとともに、3カ月に1回家族や医師、利用者の意見を聞き、それを基にミーティングで介護サービス計画の見直しを行っている。また、状態の変化にはその都度見直しを実施して、利用者の現状に即した介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	各個人の日々の生活、身体状況、介護の実践等をファイルに記載し、情報を共有して実践に繋げています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者や家族とその都度相談を行いながら、可能な限り支援に努めています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の方や他機関に施設への理解と協力をお願いし、支援を行っています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	1回/2週の主治医の往診を受けています。日頃から一人ひとりの体調の把握に努め、変化が見られるときは、主治医と連携しながら健康管理を行っています。専門医への受診時は、主治医に情報提供をいただき、送迎など可能な限り支援を行っています。	母体病院の医師が往診をしているので、主治医とする利用者が多い。呼吸器や循環器など、専門医受診のときには、主治医から相手方医師に直接情報提供を行い、家族が付き添って受診している。緊急時は、夜間でも主治医の指示を受けられる体制にあり、適切な医療を受けられるようになっている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師による訪問看護があり、バイタル・搬状態・日々の様子を伝え、助言やアドバイスを受けています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	医療機関と連携を図り、利用者、家族の意向を聞きながら支援に努めています。必要に応じて送迎や受診の介助を行い、入院時は情報提供票にて情報交換を行なっています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	必要に応じて主治医を交えて説明を行い、理解を得ると共に、可能な限り要望に沿った支援の提供を心がけています。必要に応じて看取りについての説明も行っています。	事業所での看取り体制はあるが、病院での看取りを希望されることが多く、事業所での看取りはこれまでは行っていない。希望があれば、看護師の訪問も週に2～3回あり、医師との昼夜を問わずの連携や毎週の往診も実施されているので、事業所で看取りは可能な体制が整っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	研修会を受講したりマニュアルを作成して勉強会を行い、緊急時に対応できるよう備えています。施設内にはAEDを設置し使用方法を定期的に確認して、緊急時に使用できるよう取り組んでいます。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	研修会を受講したりマニュアルを作成して勉強会を行い、災害時に対応できるよう備えると共に、日頃から関係各所と連携が取れるよう関係作りの構築に努めています。	火災訓練は年2回、うち1回は夜間を想定し近隣住民も参加して実施している。地域の避難場所となり、地区の非常用無線も事業所からできるように提供し、非常用食料も3日以上常備している。事業所付近でボヤがあったが、住民と職員がバケツリレーで消火でき、日ごろの訓練が活かされた。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	性格や身体状況の把握に努め、プライバシーに配慮した声かけや介助を心がけ、人格を尊重した支援に努めています。	全居室内にトイレが設置され、気兼ねすることなく利用できる。また、利用者との話し合いは居室や相談室で実施、職員は姓で呼び、赤ちゃん言葉を使わないよう徹底するなど、利用者の尊厳を損ねない対応が実施されている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	生活の様々な場面で、利用者の要望を聞き、自己決定できるよう支援に努めると共に、強制しないよう心がけています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの生活リズムを把握し、可能な限り本人のペースで生活ができるよう配慮しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	希望により美容院へ行ったり、好きな衣類を自分で選んだり、自分の好みの身だしなみが整えられるよう支援しています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節の食材を取り入れたり、好き嫌いやアレルギーに配慮したメニューを心がけています。食事中は穏やかな雰囲気作りに努め、ゆったりと食事が摂れるよう配慮しています。	利用者のリクエストや、好みのものを取り入れた献立を工夫している。山菜などは下ごしらえから参加する利用者もいる。食事時にはゆったりとした音楽がかかり、職員も一緒に会話を楽しみながら食べる工夫がされている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の身体状況や好みに合わせて、盛り付けや形状・量に配慮しています。また、定期的に病院の栄養士にメニューを見て頂いています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人ひとりの歯や口中の状態を把握しています。自分で出来ない利用者は、毎食後口腔ケアを行い、口腔内をチェックしています。必要に応じて歯科の治療を受けたり、希望により歯科衛生士の口腔ケアを受け、助言を頂いています。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用して、個々の排泄パターンを把握し、能力に合わせた支援に努めています。排泄介助や誘導時は、尊厳を損なうことのないよう、声掛け等には配慮をしています。	排泄チェック表を活用し、利用者個々に合った時間で排泄支援が実施されている。入居前の施設では紙おむつやパット使用していたが自宅では尿器で採尿していた情報から、トランクスに変更、尿器で自身で排尿する利用者もいる。失敗はあるが、職員が気長に見守るなど、個別の排泄支援を実施している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便の状態を把握し、食事、水分摂取量の工夫、日々の運動を日常的に行い予防に努めています。また、主治医の助言や適切な薬の処方をしてもらい、対応しています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	毎日入浴ができる体制であり、出来る限り要望に沿った支援を行っています。入浴ができない利用者は、足浴や清拭等を実施しています。	毎日の入浴が可能である。嫌がる利用者には無理強いせず、時間や人を変えながら気長に対応している。体調により入浴できない場合は、足浴や清拭等を実施している。入居者自身が洗える範囲は洗い、出来ない部分を介助するよう、能力に合わせ支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の睡眠パターンに合わせて生活リズムを作り、良眠できるよう支援を行っています。安心して休養できるよう、自室の環境作りにも努めています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の内容はファイルに綴じ、いつでも確認ができるようにし、一人ひとりの能力に合わせた服薬介助を行っています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの能力に合わせた役割作りを行っています。(野菜の下処理、洗濯たたみ、食器拭き、体操時の号令、読書等)また、個々の趣味や好きな事を職員は把握し、共有して、支援に努めています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	可能な限り要望に沿って支援を行うと共に、家族にも協力していただき、外出や外泊の支援も行っています。	事業所の庭園の散歩や車での外出(ドライブ)など、季節に合った外出機会を設けている。また、毎月自宅に外泊、夕方家族とのドライブ、法事や祝い事に外出など、利用者個々の生活スタイルに沿って、家族の協力を得ながら外出機会がつけられている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	日常的に金銭管理をするのは難しいですが、夏祭りには屋台を出し、職員や家族の見守りを受けて、利用者に好きなものを購入してもらいました。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	要望があれば電話をかけ、支援を行っています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有の空間には観葉植物や季節の花を分け、明るく安心できる空間作りに努めると共に、気温や天候に配慮しながら、光や温度調整を行っています。玄関ホールは、季節を感じられるような雰囲気作りを心がけています。	庭園には、家族からプレゼントされたあじさいなど、季節の草花が丁寧に植えつけられ、玄関も季節の花々で飾られている。壁には、事業所の活動の様子がわかるよう利用者の写真が飾られている。食堂や居間は風通しもよく、気持ちよく過ごすことができる空間を工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	自由に利用できるよう、数箇所にソファや椅子を配置しています。また、安全の確保にも配慮しています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの物を持ってきてもらい、混乱しないよう配慮しています。個々の好みに合わせた環境作りに努め、より良い生活ができるよう支援をしています。	居室には、家族、孫や曾孫の写真等が持ち込まれ、これまでの生活の継続が感じられる。どの部屋も日当たりがよく、窓に布団を干し、時計やカレンダーなどが置かれている。馴染みのチェストや毎日の衣服を選びやすいパイプハンガーの利用など、日々の暮らしが穏やかにできるよう工夫がされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	家具の配置、案内表示、自室の目印、手すり、滑り止めマット等を必要に応じて設置し、工夫しています。		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目)							
項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいの				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいの				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない

自己評価および外部評価結果

ユニット名:希望

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	開設当初から基本理念を職員全員で共有し、実践に努めています。理念は玄関ホールに掲示しています。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	敷地の開放、事業所行事への参加、婦人会コーラスの慰問などで交流を深めています。一斉清掃や地区の自主防災訓練にも参加するほか、近所の方が野菜や花を持ってきて下さったり、畑の収穫の声かけをして下さったり、日常的に交流できています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	散歩の時は地域の方と挨拶を交わして積極的に交流を図る事で自然と会話が生まれ、理解を深めています。また、地域の方から相談があれば助言を行い、支援に努めています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実況、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、事業所の現状、利用者の様子や活動等を伝え、様々な角度からの意見を参考にして、施設の向上に繋げています。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域包括支援センター職員と事業所職員とで、年に数回、情報交換や勉強会を行なっています。また、町が開催する研修会に参加したり、必要な時には相談して、助言を頂いています。ホームからは毎月通信を発送し状況をお伝えしています。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施設外研修への参加や、身体拘束ゼロの手引きを用いたミーティングや朝の会で勉強会により、身体拘束について職員に周知し、身体拘束廃止に取り組んでいます。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設内外の研修会や勉強会を通じて高齢者虐待について啓発し、徹底して防止に努めています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	施設内外の研修会に参加し、知識の習得に努めています。必要時には、支援や助言を行っています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者、家族には、入居前に重要事項及び契約等の説明して、理解と納得が得られるよう努めています。疑問点にはその都度説明を行い、理解していただけるよう努力しています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時等に十分なコミュニケーションを図り、信頼関係の構築に努めています。要望や意見は必ず職員間で伝達し、検討しています。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月ミーティングを開催して意見を出し合い、検討しています。情報は職員全員が共有できるように努めています。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の長所や能力を活かし、自信を持って働けるよう努めています。また、家庭の状況等を考慮したシフト作りを行っています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修には可能な限り参加できるよう配慮し、職員の質の向上に努めると共に、各免許の取得の支援も積極的に行っています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修会や勉強会を通じて情報交換行ない、職員一人ひとりの知識の向上や施設の向上に反映させています。また、行事等にお互いに行き来をし、交流を図っています。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	身体状況や性格・生活歴等多くの情報収集に努めると共に、傾聴を心がけ要望等を聞きながら、信頼関係作りに努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前や入居当日にゆっくりと話す機会を設け、要望や不安を聞き、出来るだけ早く信頼関係が構築できるように努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	身体状況、性格、生活歴、病歴など、できるだけ多くの情報を収集し、利用者や家族の要望を伺いながら、適切なサービスで支援できるよう、努めています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常の様々な場面で昔から受け継がれてきた生活の知恵的なアドバイスを頂いたり、家事等を一緒に行う事で、支え合える関係作りに努めています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		<p>○本人を共に支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>毎月通信を発送して暮らしぶりを伝えたり、面会の時などにゆっくりと話しをする機会を設け、思いや要望を聞きながら、共に支え合っていく関係づくりに努めています。</p>		
20	(8)	<p>○馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>今までの生活歴や交友関係が継続できるよう要望を聞きながら支援に努めています。また、面会はいつでも可能であり、面会時は自室でゆっくりと一緒に寛げるよう配慮しています。</p>		
21		<p>○利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士の関わり合い、支え合えるような支援に努めている</p>	<p>仲の良い方が自由に行き来したり、自室で一緒に過ごしたりできるよう支援しています。また、食卓の席の配置にも配慮し、より良い関係作りができるよう支援しています。</p>		
22		<p>○関係を断ち切らない取組み</p> <p>サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている</p>	<p>退所時には本人、家族、主治医を交えて相談、検討をし、要望等を聞いて、納得の行く退所としています。退所後も相談を受けたりし、継続して関わりを持っています。</p>		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	<p>○思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>意向や要望を十分に聞き、人格やプライドに配慮すると共に、今までの生活なども考慮して、一人ひとりに合った支援に努めています。</p>		
24		<p>○これまでの暮らしの把握</p> <p>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>	<p>一人ひとりの生活歴や生活状況を多面的に情報収集し、情報を職員は共有してサービスの提供に努めています。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々の生活リズムや身体能力・体調を日々観察し把握すると共に、ミーティングにてアセスメントを行い職員全員で情報を共有しています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者や家族には日常的に要望等を聞き、医師等の助言もいただきながら、ミーティングでの検討を行って介護計画に反映しています。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	各個人の日々の生活、身体状況、介護の実践等をファイルに記載し、情報を共有して実践に繋げています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者や家族とその都度相談を行いながら、可能な限り支援に努めています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の方や他機関に施設への理解と協力をお願いし、支援を行っています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	1回/2週の主治医の往診を受けています。日頃から一人ひとりの体調の把握に努め、変化が見られるときは、主治医と連携しながら健康管理を行っています。専門医への受診時は、主治医に情報提供をいただき、送迎など可能な限り支援を行っています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師による訪問看護があり、バイタル・搬状態・日々の様子を伝え、助言やアドバイスを受けています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	医療機関と連携を図り、利用者、家族の意向を聞きながら支援に努めています。必要に応じて送迎や受診の介助を行い、入院時は情報提供票にて情報交換を行なっています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	必要に応じて主治医を交えて説明を行い、理解を得ると共に、可能な限り要望に沿った支援の提供を心がけています。必要に応じて看取りについての説明も行っています。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	研修会を受講したりマニュアルを作成して勉強会を行い、緊急時に対応できるよう備えています。 施設内にはAEDを設置し使用方法を定期的に確認して、緊急時に使用できるよう取り組んでいます。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	研修会を受講したりマニュアルを作成して勉強会を行い、災害時に対応できるよう備えると共に、日頃から関係各所と連携が取れるよう関係作りの構築に努めています。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	性格や身体状況の把握に努め、プライバシーに配慮した声かけや介助を心がけ、人格を尊重した支援に努めています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	生活の様々な場面で、利用者の要望を聞き、自己決定できるよう支援に努めると共に、強制しないよう心がけています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの生活リズムを把握し、可能な限り本人のペースで生活ができるよう配慮しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	希望により美容院へ行ったり、好きな衣類を自分で選んだり、自分の好みの身だしなみが整えられるよう支援しています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節の食材を取り入れたり、好き嫌いやアレルギーに配慮したメニューを心がけています。食事中は穏やかな雰囲気作りに努め、ゆったりと食事が摂れるよう配慮しています。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の身体状況や好みに合わせて、盛り付けや形状・量に配慮しています。また、定期的に病院の栄養士にメニューを見て頂いています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人ひとりの歯や口中の状態を把握しています。自分で出来ない利用者は、毎食後口腔ケアを行い、口腔内をチェックしています。必要に応じて歯科の治療を受けたり、希望により歯科衛生士の口腔ケアを受け、助言を頂いています。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用して、個々の排泄パターンを把握し、能力に合わせた支援に努めています。排泄介助や誘導時は、尊厳を損なうことのないよう、声掛け等には配慮をしています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便の状態を把握し、食事、水分摂取量の工夫、日々の運動を日常的に行い予防に努めています。また、主治医の助言や適切な薬の処方をしてもらい、対応しています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	毎日入浴ができる体制であり、出来る限り要望に沿った支援を行っています。入浴ができない利用者は、足浴や清拭等を実施しています。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の睡眠パターンに合わせて生活リズムを作り、良眠できるよう支援を行っています。安心して休養できるよう、自室の環境作りにも努めています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の内容はファイルに綴じ、いつでも確認ができるようにし、一人ひとりの能力に合わせた服薬介助を行っています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの能力に合わせた役割作りを行っています。(野菜の下処理、洗濯たたみ、食器拭き、体操時の号令、読書等)また、個々の趣味や好きな事を職員は把握し、共有して、支援に努めています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	可能な限り要望に沿って支援を行うと共に、家族にも協力していただき、外出や外泊の支援も行っています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	日常的に金銭管理をするのは難しいですが、夏祭りには屋台を出し、職員や家族の見守りを受けて、利用者に好きなものを購入してもらいました。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	要望があれば電話をかけ、支援を行っています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有の空間には観葉植物や季節の花を活け、明るく安心できる空間作りに努めると共に、気温や天候に配慮しながら、光や温度調整を行っています。玄関ホールは、季節を感じられるような雰囲気作りを心がけています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	自由に利用できるよう、数箇所にはソファや椅子を配置しています。また、安全の確保にも配慮しています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの物を持ってきてもらい、混乱しないよう配慮しています。個々の好みに合わせた環境作りに努め、より良い生活ができるよう支援をしています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	家具の配置、案内表示、自室の目印、手すり、滑り止めマット等を必要に応じて設置し、工夫しています。		

ユニット名:

希望

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目)							
項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいの				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいの				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない